

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公開します。

会 議 名	平成30年度第2回高松市生涯学習センター等運営協議会
開 催 日 時	平成30年11月7日（水）午前10時
開 催 場 所	高松市生涯学習センター2階 小研修室
議 題	(1) 平成30年度高松市生涯学習センター主催事業（上半期）について (2) 平成31年度高松市生涯学習センター主催事業（案）について
公 開 の 区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出 席 委 員	9人
	武重会長、藤井副会長、上原委員、阿部委員、有賀委員、岩本委員、川上委員、徳増委員、豊田委員
傍 聴 者	0人
担当課及び連絡先	生涯学習課 生涯学習センター 087-811-6222

協議経過及び協議結果
<p>《次第》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 教育局長あいさつ 3 会長あいさつ 4 議事 <ul style="list-style-type: none"> (1) 平成30年度高松市生涯学習センター主催事業（上半期）について (2) 平成31年度高松市生涯学習センター主催事業（案）について <p style="margin-left: 2em;">※事務局より配布資料に基づき説明後、議事単位で協議・意見交換</p> 5 その他 6 閉会
----- 協議経過及び協議結果 -----
<p>議事（1）平成30年度高松市生涯学習センター主催事業(上半期分)について</p> <p>事務局から、平成30年度高松市生涯学習センター主催事業(上半期分)について、説明を行った。</p> <p>（委員）</p> <p>生涯学習の在り方について、市民のニーズを汲み取りそれを生かすことができるかが、生涯学習センターの課題である。現在も多彩な講座を行っているが、講座内容の質を向上するためにはどうするか。有料であっても人が集まる講座にはどのような原因があるのか、講師や受講者との対話を通して探ることで、課題を具体的に見極めていただきたい。</p> <p>また、ニュース性のある要素をメディアから取り入れることで市民の興味を引くこと、テレ</p>

ビなどのメディアやエントランスホールなどのスペースを活用することも必要である。高松市の図書館や歴史資料館、男女共同参画センターなどで、どのような講座を開催しているか把握し、各館が連携することで、学習機会を補い合うようにしてはどうか。

(事務局)

当センターのPR不足は、以前から課題となっている。テレビなどメディアの力は借りていきたい。また、生涯学習センターを含め、各館のネットワークは重要であるが、行事や講座内容を集約する手法が見出せていない状況である。インターネットによる情報の集約などを検討する。

本年度からは、いきいき高松まなびプランの計画期間終了に伴い、生涯学習に関する計画が教育振興基本計画に組み込まれることとなったが、このことによって生涯学習に関わる各課の連携が薄まったと捉えられないようにする。

(会長)

来場者の多かった「讃岐の方言グラフィックパネル作品展」のPRはどのような手法で行ったのか。

(事務局)

歴史資料館との連携事業で提供されたパネルを展示し、マスコミに情報を提供した結果、テレビの取材が一社あった。

(会長)

生涯学習センターが力を入れている事業をメディアに売りこむのは有効と考えられる。テレビという広報手段を生涯学習センターが活用するというのはいい案である。

(委員)

多様な市民ニーズや講座による学習成果の評価は生涯学習センターにとって必要な情報であるが、実際には得ることが難しい情報である。そこで、世代別モニター制度を実施してはどうか。モニターに講座を受けてもらうことで、受講者の声を直接聴くことができる。運営委員も実際に講座を受け、生涯学習センターの職員に意見やアイデアを出していくべきである。

(事務局)

今年の8月から、運営委員にまなびかんづめ(生涯学習センター発行の広報誌)を送付する際、ご意見を頂けるように、用紙を同封している。実際に講座を受講した委員からはご意見もいただいているので、参考にさせていただく。今後も運営委員には、生涯学習センターにとって第一のモニターとなってほしい。世代別モニター制度も検討する。

(委員)

運営委員になってから実際に講座を受けてみたところ、13:30~15:00などの時間帯が多いようである。夜間開催の18:00~という時間帯も、仕事が終わってから行くには早い時間帯であるため、受けたい講座と仕事が被ることが多く残念な思いをした。同じ講座でも午前の部、午後の部を作るなど、開催時間について検討いただきたい。

(事務局)

市民の利用しやすい時間帯を把握して、開催時間を検討することが、幅広い層の市民に生涯学習センターを利用してもらうための一歩になると考える。

(会長)

生涯学習にかかわる一番難しい問題で、空いている時間を活用したいが、時間が合わないことで学習機会が損なわれるということがある。

(委員)

子ども教室について、講座によって申込数に差がある。子どもたちにも忙しい時期があることや、子ども・保護者のニーズの変化、講座情報の伝わりにくさが課題である。例えば、子ども教室では親子尺八教室を開催しているが、尺八は日本古来の伝統楽器として音楽の授業で取り上げられるので、音楽の先生に情報を提供するなど、学校の先生との連携を呼び掛けてみるのはどうか。

(事務局)

子ども教室は大半が夏休みに開催されており、当初は夏休みの宿題対策が多かった。しかし、今後はニーズの変化が予想される。夏休みの子ども教室に関しては、各小中学校にチラシを配布し、掲示をお願いしているが、更に学校との連携を深めたい。現在、来年度の展示事業として、無料で展示スペースを提供し、小学校・幼稚園の子供たちの作品展示ができないか検討している。作品展示をきっかけに、生涯学習センターを知ってもらうことにつなげていきたい。

(委員)

チラシを掲示するだけではなく、各家庭に配布し保護者の目に触れるようにすることが必要である。学校の掲示だけでは、子どもたちがチラシを見て、受けてみたいと思ってもそこで終わってしまう。保護者が見ると、子どもたちの興味とはまた違った講座を受けさせたいと思う。展示についても、子どもたちの作品があれば保護者が来ることになるので、様々な学校に声をかけてほしい。

(委員)

以前より難しい意見にも応えていただいている点は評価したいが、一部の講座では何年も内容に変化が見られない。今後は講座内容のレベルアップが必要である。講座を評価し、回を追うごとに内容を変えていかなければ、受講者の学習成果につながらない。また、今後市民に知ってもらいたい内容の講座を開催していく必要がある。

重要なのは、若者のニーズをとらえ、世代間交流を図ることである。このとき学校だけでなく、各コミュニティーを通して若い世代を取り込むことで、コミュニティーの交流を図ることもできる。

人気のある講座が定員に到達し、キャンセル待ちになることがあるが、市民が学習の機会を逃すことになるため、改善が必要である。市民の希望に沿う学習機会を提供することで、満足度を高めてほしい。

(会長)

市民、特に子どもや若い世代などのニーズ把握の方法として、子供たちの興味関心を知っている、学校の先生の意見を聞く機会を設けるのは良い案であると思う。

(委員)

最近パソコンを始めたが、センターで開催されている講座は初心者向けばかりで、ステップアップした講座がない。一度講座を受けた人がまた来たくくなるような、次の段階を楽しむための講座がほしい。そうすることで、受講者が次に講座を受けるまでの道筋を作ることができるのではないか。

(事務局)

パソコン講座をはじめとして、中級者向けという講座はあまり行われていない。「入門編」や「初心者向け」という講座が多く、類似した内容や重複した内容もあるため、次年度に向け、講師と相談して検討していく。

(委員)

センターのパソコン講座を実際に受講してみると、「初心者向け」とはいつても内容面では充実している。他のパソコン講座と比較しても良い講座であると言えるので、講座名に入っている「初心者」という言葉を変えるなどの工夫をして、PRしてはどうか。

(事務局)

センターのパソコン講座では、自分のパソコンが持ち込めるといった、他のパソコン講座にはない利点もある。このような特色を活かしたPRをしていく。

(会長)

今日、協議した意見を取り入れ、新しい方策を考えるようにお願いしたい。

議事(2) 平成31年度高松市生涯学習センター主催事業(案)について

事務局から、平成31年度高松市生涯学習センター主催事業(案)について、説明を行った。

(委員)

センターが今後のビジョンを立てる前の段階として、市民や関係各課職員の意見を募集する、準備期間を設ける必要がある。そして事業を執り行うだけでなく、ビジョンの見直し・軌道修正をすることも必要である。

(事務局)

各課の連携を図るために、生涯学習推進本部会及び幹事会では、生涯学習についての認識の共通化を図っている。それぞれの事業計画に沿って事業に取り組んでいても、横から見てみると生涯学習に関連しているということは多々ある。そういう認識を他の局・課にももってもらえるよう、生涯学習についての情報を共有していく。

(委員)

市役所に行くときごとに業務の分担が見てとれるが、実際は切り離せない問題もある。各課が1つの業務に特化するのではなく連携し、関連した業務を補い合い、より良い業務内容、ニーズに合ったサービスの提供をしてほしい。

(事務局)

生涯学習が担う側面は多く、行政のことを市民にお伝えするのも生涯学習の一つである。課の枠組みにとらわれることなく、市民と行政の橋渡しとしての役割を果たせるような講座も検討する。

(副会長)

一番忘れてはならないのは市民、特に若者を取り込むことである。局長級、課長級の会議で、前線で働く若い職員の意見は取り入れられているのだろうか。若い人たちは、生涯学習や社会にまっすぐ向き合っているのか。まず、市役所の若い職員の意見を聞いて、若者たちに生涯学習についての取り組みが広まっていくような方法を考えてほしい。年齢が上の世代が考えると、若者にとって魅力がある取り組みはできない。

(会長)

問題なのは、若者が生涯学習や社会に意見を持っていない現状である。社会への関心がない学生がいる一方、ボランティア活動などに興味をもっている学生もおおり、両極端である。社会にも歴史にも興味がない、そのような若者を取り込むことが課題となる。

(委員)

創造都市推進局ではアンダー40の会議を行っているが、ここではかなり前向きな意見がど

んどん出ている。このように若い人から出ている意見を埋没させないよう機会を設ける必要がある。

(会長)

そういった趣旨の講座も、生涯学習センターで開催可能なのではないか。

次年度より、今までやってきた講座を分類する形で、枠組みができた。これから講座の増減を分析することで、企画・評価につなげることができると期待している。3、4年継続すると、講座の枠組みそのものが変化すると思われるが、次年度はとりあえずこれではじめてみる。

次年度の案には新規事業が多く見られるが、これは可能なのか。

(事務局)

あくまで案ではあるが、例年4分の1程度の新規事業を行っており、次年度も可能である見込みである。商店街の中で協力を呼び掛けたい店や、得意分野の学習成果を発表できる講師などはすでに選定を進めている。

(委員)

3か月に1回くらい、若者中心の会議を催して、世代間交流を図ってはどうか。

(事務局)

昨年度はセンターの15周年記念事業の一環として「まなび座談会 学生と考える“ここから始まる高松”」と題して、学生グループに生涯学習について考えていることを話していただいた。次年度の事業としても、基本方針にあげた「ライフステージに応じた学習機会の提供」「多様なネットワークによる学習機会の提供」などの項目で開催を検討する。

(会長)

次年度の詳細な計画ができれば、報告いただきたい。

その他 多目的ホールの天井改修工事について

(事務局)

工事が予定通り終了すれば、来年の2月から多目的ホールが使用できるようになる。

(会長)

今までのように、多目的ホールを使って充実した講座ができるようになることを期待している。